

アラモ (THE ALAMO)

2004(平成16)年7月30日鑑賞(試写会・リサイタルホール)

★★★★



監督＝ジョン・リー・ハンコック／出演＝デニス・クエイド／ピリー・ボブ・ソートン／ジェイソン・パトリック／パトリック・ウィルソン／エミリオ・エチェバリア／ジョルディ・モリャ (ブエナ・ビスタ・インターナショナル (ジャパン) 配給／2004年アメリカ映画／137分)

第3章

スクリーンの彼方に世界が見える

……今、アメリカ合衆国の一部となっているテキサス州のメキシコからの独立は、1836年春のアラモ砦の悲劇を礎としたもの。ジョン・ウェインの『アラモ』(60年)から40数年を経て、今よみがえるアラモ砦の物語は、悲劇的な最後で終わらせず、「Remember the Alamo (アラモを忘れるな!)」を合言葉とした新たな物語へ……。 「愛する人がいた。守るべき家族があった。戦う理由など、他にはなかった……」というコピーが胸に響く感動作!

🎬 ブッシュ大統領とムーア監督

2004年7月の今、アメリカではマイケル・ムーア監督の『華氏911』(04年)が大ヒット中。これは真正面からブッシュ大統領の政策を批判し、第57回カンヌ国際映画祭で最高のパルムドールを、さらに国際批評家連盟賞を獲得した超話題作で、日本でも8月21日から全国公開されることになっている。

この『華氏911』のテキサス州での上映をめぐる、今、テキサス州が燃えていることが、2004年7月20日付産経新聞夕刊で報道された。ブッシュ大統領はテキサス州出身で、テキサス州のクロフォードには大統領の私邸がある。したがって、ブッシュ大統領支持派の主張は、「ここはブッシュの地。上映は許せない」というもので、袋詰めにした大量の肥料を持ち込んだ男性は、「クソ(ムーア監督)にはクソが似合う」と抗議の意を示したとのこと。

このため、7月28日の試写会に出席する予定だったムーア監督は、急きょとりやめたとのこと。アラモ砦の悲劇を礎として、メキシコからの独立を勝ちとり、

アメリカ合衆国の28番目の州となったテキサス州の人たちの「西部魂」は、今も健在……？

民主党大会とムーア監督

他方、同日付朝日新聞夕刊は、別の視点から次の記事を掲載した。すなわち、ムーア監督が民主党全国党大会の開かれているボストンに姿を見せ、各地の集会で大人気。しかし、ムーア氏の登場は、民主党にとって強力な援軍だが、一方では不安のタネでもある。ブッシュ批判をめぐる不規則発言でもあれば、物議をかもしかねないからだ。まさに、「助っ人？ 不安材料？ ムーア監督」ということだ。

ジョン・ウェイン版『アラモ』

アラモ砦の悲劇とは、1836年春、わずか200人足らずの男たちが、アラモ砦にたてこもって、サンタアナ將軍率いるメキシコ正規軍と13日間にわたって戦い、全員壮絶な最期を遂げたという物語。

このアラモの物語の映画化に執念を燃やし、1200万ドルの私財を投じて、ジョン・ウェインが自身で製作・監督・主演をかねたうえ、師ジョン・フォードの監修を受けてつくったのが、『アラモ』(60年)。主役のジョン・ウェインが演ずる役柄は、実在した伝説の人物デイヴィ・クロケットだ。ジョン・ウェイン主演の『アラモ』は、アラモ砦にたてこもって戦う男たちの友情とその悲劇的な結末を強調したもので、『はるかなるアラモ』という美しい音楽とともに、今日まで語り継がれている名作。

しかし興行的には成功したとはいえず、1960年第33回アカデミー作品賞にノミネートされたものの、大賞を獲得したのは『アパートの鍵貸します』だったし、ジョン・ウェインは主演男優賞にノミネートさえされなかった。

アラモの物語は、アメリカ人の心のふるさと？

1841年12月8日、日本軍からの真珠湾攻撃を受けたアメリカでは、ルーズベルト大統領の「Remember パールハーバー」の呼びかけに呼応して、合衆国の全国

民が立ち上がった。

そしてまた、2001年9月11日ニューヨークで発生した同時多発テロの後、テキサス州出身のブッシュ大統領が、合衆国国民に向けて呼びかけたのも、「Remember 9.11」。

アラモ砦の13日間の攻防戦が始まったのは、1836年2月23日。そして守衛隊全員が玉砕したのは13日目にあたる3月6日のこと。その悲報を受けたヒューストン将軍率いるテキサス義勇軍は、「Remember the Alamo」の合言葉のもとに反撃を開始し、続く「サン・ハシントの戦い」で、メキシコ軍を打ち破った。そして、捕虜としたサンタアナ将軍の釈放と引き換えにテキサスの独立を達成。1836年3月にテキサス共和国が誕生した。

アメリカ大統領による「Remember パールハーバー」と「Remember 9.11」という国民への呼びかけのルーツは、実はこのアラモ砦での壮絶な玉砕を受けて、テキサスの独立を目指して戦ったヒューストン将軍の「Remember the Alamo」の呼びかけだった。そういう意味において、このアラモの物語は、アメリカ人にとっては心のふるさと……？

2004年版『アラモ』の特徴

2004年版『アラモ』が、ジョン・ウェイン版『アラモ』と大きく異なるのは、テキサス独立という大テーマを映画の軸に据えていること。すなわち、アラモ砦に援軍を送らなかったヒューストン将軍の苦渋の選択や、サンタアナ将軍の追撃から逃げてばかりいるヒューストン将軍の戦略、戦術の意味がこの映画からは実によくわかる。

サンタアナ将軍は自ら「西部のナポレオン」と称している独裁者だが、この映画を観ている限り、軍事上の戦略、戦術には何の知恵も見られない。当初の火力と兵力の差をみれば、なぜアラモ砦が13日間も持ちこたえられたのかが不思議だったが、それは、サンタアナ将軍の砦攻めの戦術のまずさによるもの。なぜ徹底した砲撃を加えたうえで、砦の1カ所に兵力を集中して攻撃しないのだろうか？ 軍事の天才であったナポレオンの価値基準は、何よりも、兵力の集中と移動のスピード。サンタアナ将軍のやっていることは、全くその正反対で、これではバカ

将軍（失礼！）と言われても仕方ないのでは……？

ヒューストン将軍の功績は大！

他方、アラモ砦を陥落させ、ヒューストン軍を追ってくるサンタアナ軍から逃げてばかりの義勇軍を率いるヒューストン将軍は、無目的で無展望な逃亡劇を続けているわけではなかった。つまり、1815年にエルバ島を脱出して兵力を再結集したナポレオンとイギリス・プロイセン連合軍との間で戦われた「ワーテルローの戦い」で勝利したイギリスのウェリントン将軍の作戦と同じように、ヒューストン将軍は、敵の兵力の分散と最も有効な戦いを展開するためのベストの地形を求め、そのチャンスを狙っていたのだった。

そして、やっとみつけたその舞台で展開されたのが「サン・ハシントの戦い」。わずか28分の戦いでメキシコ軍を打ち破り、サンタアナ将軍を捕虜としたヒューストン将軍の見事な戦略、戦術は高く評価されなければならない。

アメリカ・メキシコ戦争（米墨戦争）への発展

アラモ砦の陥落と守衛隊全員の戦死は、アラモの映画から私たち日本人もよく知っている歴史上の知識だが、実はアラモ砦の物語は、その後のテキサス共和国の独立からテキサスのアメリカ合衆国への併合、そしてアメリカ・メキシコ戦争（米墨戦争）にまで発展するもの。その歴史上の経過は次のとおりだ。

まず、1836年に独立したテキサス共和国は1845年にアメリカ合衆国に併合された。これはアメリカ合衆国の膨張政策以外の何ものでもないもの。そして、アメリカ合衆国は貪欲にもその後、メキシコに対してカリフォルニアとニューメキシコの買収による併合を要求した。

そんな中、武力衝突が発生し、以降全面的なアメリカ・メキシコ戦争（米墨戦争）へと発展することに……。

そして軍事に勝るアメリカ軍はたちまちメキシコ領土に侵攻し、1847年ロサンゼルスを占領、さらにメキシコの首都であるメキシコ市も占領した。その結果、翌1848年に、グアダルルーペ・イダルゴ条約が調印され、メキシコは、テキサスからカリフォルニアにいたる当時のメキシコ領土の約半分にあたる広大な領土を失

うに至り、逆にアメリカ合衆国は広大な土地を獲得するに至った。

そしてその後のアメリカは、アメリカ大陸横断鉄道の建設、カリフォルニアでのゴールドラッシュの出現と続いたうえ、その後の太平洋からアジアへの進出という形で、あくなきアメリカの膨張政策が続くことになったわけだ。

覚えておきたいヒーローたち

日本には、「判官びいき」の習慣があり（?）、源義経はその代表的な日本人の悲劇のヒーロー。また、徳川家康と最後まで戦った真田幸村や、その配下の個性豊かな真田十勇士の面々も、日本人とりわけ子供たちの心のヒーローだ。

また、中国では、15世紀にまとめられた小説『水滸伝』に描かれた、梁山泊に立てこもってワル官僚たちと戦った豪傑たち108人も、1人1人がヒーロー。それと同じような意味で、このアラモの砦に結集した①デイヴィ・クロケット、②ジム・ボウイ、③ウィリアム・トラヴィス中佐らもアメリカ社会のヒーローたち。

もっとも彼らは、日本での源義経や真田幸村のように、どこから見てもカッコいい英雄ではなく、数々の「失敗」を重ねてきた経歴をもつ、欠陥だらけ（?）の人間。そんな欠陥をもつ人間だが、それぞれ自分なりにアラモ砦における戦いの意義を認め、そのことに確信をもって立てこもって戦い、そして、死んでいったわけだ。

この映画のキャッチコピーとなっている、「愛する人がいた。守るべき家族があった。戦う理由など、他にはなかった……」というのは、その1つの意義づけにすぎない。このように、1人1人がそれぞれ自分なりの価値判断をもち、それに忠実に従うというアメリカ社会の個性は、見習いたいものだ。それを学ぶためにも、アラモ砦の3人のヒーローの名前とその実績くらいは、日本人もきちんと勉強したいものだ。

2004(平成16)年7月30日記